



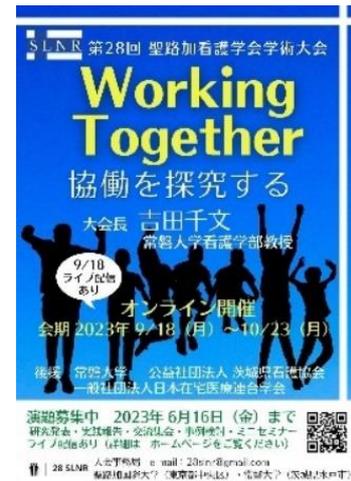
2023.8.31 発行

No.62

■ 第 28 回聖路加看護学会学術大会のご案内

テーマ 「Working Together:協働を探究する」

- ◆ オンライン開催会期：
2023/9/18(月)～10/23(月)
- ◆ オンデマンド配信プログラム(9/18～
10/23)：会長講演、特別講演、ミニセミナー
- ◆ ライブ配信プログラム(9/18のみ、オンデマ
ンド配信はありません)：シンポジウム、パネルディ
スカッション、交流集会、事例検討会



◆ 大会長：吉田 千文 (常磐大学 教授、聖路加国際大学 名誉教授)

第 28 回聖路加看護学会学術大会まで 1 か月を切りました。

一般演題ならびに交流集会・事例検討会・ミニセミナーへ、皆様より多数の応募をいただき誠にありがとうございました。

一般演題では採択された 36 演題をもとに、「Ⅰ. 様々なケアのかたち」「Ⅱ. 急性期看護の現場で」「Ⅲ. 産み育む」「Ⅳ. 看護の担い手を育てる」「Ⅴ. 地域という生活の場で」「Ⅵ. よりよく働く」「Ⅶ. 多様な文化のなかで」の 7 つの群を構成し様々な専門領域の研究や実践活動の発表を企画しております。交流集会・事例検討会・ミニセミナーについては、下記をご確認ください。

本大会では特別講演(8 講演)やシンポジウム(1 題)、パネルディスカッション(1 題)を含めた大変充実したプログラムを準備いたしました。皆様との議論を通し、協働を探究し、これからの看護実践のあり方や看護学研究の課題を一緒に考えて行きましょう。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

交流集会(2題)

- シミュレーション学習を用いた学生の自己学習支援における学生と教員の協働プロジェクトの紹介
責任者:賀数勝太(聖路加国際大学)
- あなたの実践・研究・教育の目的地を定め、キャリアを描くキャリア・カルトグラフィー:描いてみよう
責任者:小林京子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)

事例検討会(1題)

- 先天性心疾患術後で妊娠・出産・育児をする患者・患者家族を多領域で協働して支えるために
責任者:金城有華(聖路加国際大学大学院 看護学研究科博士前期課程小児看護学上級実践コース)

ミニセミナー(3題)

- 聖路加看護学会周年委員会企画
責任者:亀井智子(周年事業委員会委員長・聖路加国際大学大学院)
- あなたの実践・研究・教育の目的地を定め、キャリアを描くキャリア・カルトグラフィー
責任者:小林京子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)
- モンゴル国における看護コンピテンシー開発について
責任者:菅原千賀子(JICA モンゴル事務所)

第28回聖路加看護学会学術大会事務局(担当 奥、相澤)

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

E-Mail:28slnr@gmail.com

詳細はホームページ(URL: <https://supportoffice.jp/slnr28/>)



■ 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 2022 年度採択者報告

空間疫学を援用した特定健康診査の高受診率地域クラスターの検出とその地域特性

水谷 真由美

(三重大学大学院医学系研究科看護学専攻 准教授)

聖路加看護学会 2022 年度看護実践科学研究助成のご支援を頂き、「空間疫学を援用した特定健康診査の高受診率地域クラスターの検出とその地域特性」の研究を実施いたしました。

メタボリックシンドローム予防のための特定健康診査(以下、特定健診)施行から約 15 年が経過し、受診率は着実に向上してきたものの、地域格差などの課題が指摘されています。その是正には、地域格差が生じるメカニズムの解明が必要です。

先行研究から、健診受診率への関連要因が報告されているものの、受診率と各変数間の関連強度は、地理的環境により変化する可能性があり、関連強度が地理的に不変であるという先行研究の前提条件は妥当性に欠けます。そこで、地理的分布を視覚化し、空間統計学を用いて規定要因を検証する空間疫学を援用した研究の着想に至りました。

本研究の目的は、都道府県レベルの年齢調整特定健診受診率が高い地域クラスター、10 年間で受診率を向上させた地域の空間・時間的変動性、受診率と要因の関連性における地域変動を明らかにすることでした。

研究デザインは、47 都道府県のデータを用いた生態学的研究です。データ収集は、e-Stat(総務省統計局)、厚生労働省ウェブサイトなどを用いて、目的変数、説明変数、地理空間データを収集しました。解析は、受診率が高い/向上した地域クラスターを特定するため、地域集積性の検定を行いました。また、受診率の高値と向上に関連する要因を明らかにするため、重回帰分析、空間回帰分析を行いました。さらに、関連強度の地域変動を明らかにするため、地理加重回帰モデルをデータに当てはめました。

年齢調整特定健診受診率が高い地域クラスター数は、男女とも 2009~2019 年の 10 年間に増加していました。回帰モデルにより、2019 年の受診率と人口当たり保健師数との間に正の関連を示しました。地理加重回帰モデルにより、女性ではその関連強度に地域差を認めました。男性の受診率向上の関連要因について、空間誤差モデルにのみ関連を示した変数が存在しました(詳細な結果は、聖路加看護学会の学術大会および学会誌にて報告予定)。

つまり、特定健診受診率の高値および向上の関連要因として、空間疫学により、従来の回帰モデルでは見出せなかった関連を見出し、関連強度の地域差を示すことができました。本研究を基盤に、将来的に地域特性をふまえた公衆衛生看護実践へのエビデンスを構築していくための研究に邁進したいと存じます。聖路加看護学会のご支援のもと、研究を推進する機会を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

■ 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 2021 年度採択者報告

院内迅速対応システム:RRS (Rapid Response System) が起動された患者の退院時までの身体状況・看護必要度の特性把握に関する研究

津田 泰伸

(聖路加国際大学大学院博士後期課程／聖マリアンナ医科大学病院)

院内迅速対応システム:RRS (Rapid Response System) とは、患者の状態が通常と異なる場合に、看護師等があらかじめ定められた起動基準に従い専門チームに連絡することで、患者の致死性の高い急変を未然に防ぐシステムを言います。以前から認知はされていましたが、2022 年度診療報酬改定で新設された「急性期充実体制加算」で RRS の導入・運営が施設基準として求められるようになり、現在、急速に普及が進んでいます。このシステムは医療安全上、院内心停止率や防ぎ得た死亡率が主要評価項目とされていますが、RRS によって救命された患者のその後の療養過程には着目されていません。そこで、本研究は RRS が起動された患者がどのような回復過程を辿り、どのような状態で退院していくのか調査することを目的としました。

デザインは後ろ向き観察研究とし、対象者は、2018 年～2020 年の 3 年間に RRS が起動された 1 施設の入院患者としました。診療録から患者属性、起動理由、起動後の療養先 (ICU/HCU/病棟)、転帰、在院日数、看護師が評価する「重症度、医療・看護必要度評価」(重症度評価:必要度 A (15 項目)、状態評価:必要度 B (7 項目))などを抽出し分析しました。

その結果、RRS が起動された患者は 440 名おり、その後に死亡 38%、生存 62%の転帰をたどりました。生存者は軽快退院 84.3%、転院 15.0%、入院継続 0.7%し、平均在院日数は 43 日でした。RRS 起動後に収容された場所は ICU が多く、ICU に入室した方は HCU や病棟に収容された方と比較して、退院までの日数が多い結果となりました。起動後も再び状態悪化を認め ICU や HCU へ再入室する患者が 15%近くおり、その方々は、寝返り、移乗、口腔清潔、食事摂取、衣服の着脱、診療・療養上の指示応答に制限を生じている割合が高いことを認めました。

本研究で、RRS が起動された患者は、順調に療養場所をステップダウンできる場合とそうでない場合が存在し、特に ICU 入室や療養過程で病態の再悪化を認めた場合には、ADL を低下させ在院日数の延長につながることを示すことができました。異常の早期発見と、急性期を脱した後のフォローアップの重要性が示唆されました。今後、RRS が起動された患者の主観的な体験を探り、急性期病院における看護実践の在り方を更に探究していきたいと思います。

臨床でのコロナ重症患者対応と並行した時期の研究であったため、皆さまへのご報告が大変遅くなりましたことをお詫びすると同時に、貴重な助成金をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

■ 周年事業委員会からのお知らせ

聖路加看護学会は2026年4月に創立30周年を迎えます。周年事業委員会が立ち上がり、まずはプレイベントを企画しています。第28回学術大会に合わせ、これまでの聖路加看護学会が社会に向けて何を発信してきたかを紹介し、聖路加看護学会の魅力や役割を発信する動画の作成を進めています。また、会員の皆様がお持ちの、過去の学術大会の写真や動画を集めライブラリーを作る計画も進めており、30周年の記念大会でお披露目できればと考えています。松谷前理事長が生前の理事会の際に本事業に賛成とご発言をいただきました。それを礎に委員一同で学会を盛り上げたいと考えています。

周年事業委員会 委員長 亀井智子
委員 片岡弥恵子、田代順子、奥裕美、佐居由美、三浦友理子、大田えりか、高橋恵子

【学術交流委員会からのお知らせ】

委員会活動の強化に向けて、新たに委員が1名加わり(牧野晃子:聖路加国際大学)、8名体制となりました。看護実践科学助成事業(以下、研究助成)と学術交流事業のより一層の充実を目指し、委員一丸となって取り組みたいと思います。

研究助成は例年通り2023年12月から募集開始します。今回の応募から助成金額が総額40万円に増額となりました。多数の皆様の応募をお待ちしております。

学術交流事業では2024年3月14日(木)に学術交流集会をWeb開催する予定です。実践力や研究力の向上の一助となる企画を検討しております。両事業共に、詳細は後日ホームページ等でご案内いたします。
(副委員長 青木美紀子)

【高度実践看護開発検討委員会からのお知らせ】

～2023年度の活動について～

2023年も高度実践看護を推進するための研修会を開催いたします。

12月開催の予定で、多くの方に興味をもっていただけるよう委員会で検討しております。詳細が決まりましたら、ホームページでご案内いたしますので、楽しみにお待ちください。

(青木 悠, 小林成光, 小松崎朗子, 山本加奈子, 吉田智美, 渡辺かづみ, 柳橋礼子)

【学会誌編集委員会からのお知らせ】

ここ最近、投稿論文数が増えてきました。編集委員会委員一同、投稿して下さった皆様になるべく早く査読結果をお返しできるよう、頑張っております。さらに、皆様が投稿しやすい学会誌となるよう対応を検討中です。本学会誌は、随時、新規投稿を受け付けております。会員の皆様の投稿を心よりお待ちしております。

(有森直子, 大坂和可子)

【選挙管理委員会からのお知らせ】

2024年6月の評議員および理事・監事の任期満了に伴い、今年度、2つの選挙を実施します。選挙は、定款および評議員・役員選挙規程に基づき、選挙人となる会員の方へ投票用紙を郵送いたします。

1つ目の選挙は、評議員選挙です。

投票期間は、2023年9月6日～9月26日(当日消印有効)です。

2つ目の選挙は、役員選挙です。

投票期間は、2023年11月13日～11月30日(当日消印有効)です。

選挙に関する詳細は、聖路加看護学会ホームページに掲載している「一般社団法人 聖路加看護学会 評議員選挙告示」「一般社団法人 聖路加看護学会 理事・監事選挙告示」をご覧ください。

また、6月から選挙管理委員に相澤恵子委員(聖路加国際大学)と射場典子委員(聖路加国際大学)の2名が加わり、5名体制で進めていきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(高橋恵子, 永井智子, 西村恵理奈, 相澤恵子, 射場典子)

【庶務からのお知らせ】

猛暑が続いておりますが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか? 会員の皆様の安全を心よりお祈り申し上げます。庶務では、秋から学術集会、理事・評議員の改選などを中心に学術集会の企画委員や選挙管理委員会の委員と連絡をとり進めています。皆様も、学術大会、選挙に向けて学会費の納入をお済ませくださいますようお願い申し上げます。その際、勤務先、所属、住所の変更がございましたらホームページの変更届フォームで変更可能でございます。ぜひご利用ください。もしくは学会事務局までお知らせいただければ幸いです。事務局への連絡は郵便、FAX、E-mail のいずれでも可能でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(大久保暢子, 森田誠子, 西垣佳織)

【会計からのお知らせ】

2023 年度もおよそ半分が過ぎますね。間近にせまった 9 月からの学術大会では多くのプログラムが準備されています。学術交流委員会、高度実践開発検討委員会からも様々な企画を準備しています。聖路加看護学会誌への投稿も増加しています。会員の皆様には学会の活動を積極的にご活用いただければと思います。

学会活動は皆さまの会費により成り立っております。2023 年度の会費納入がお済みでない方は必ず納入してください。お送りした振込票が手元になくなってしまった方は、下記をご利用ください。どうぞよろしくお願いいたします。

(平林優子, 小林真朝, 亀田典宏)

振り込み先：郵便振替口座
口座番号：00100-8-670371
加入者名：一般社団法人聖路加看護学会

【編集後記】

COVID-19 が5類感染症に移行後の初めての夏、各地では賑わいを取り戻していました。一方、オンラインやハイブリッドでの学会開催も恒例になりました。コロナ禍での経験を活かし、豊かな学びを続けていきたいと思えます。

(松尾尚美 佐居由美 大橋久美子

瀬戸山陽子 竹森志穂 海老原樹恵 賀数勝太)



ニュースレター発行や様々な情報をメールリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、
変更届フォームにて、<https://slnr.or.jp/change/>
学会事務局までご連絡ください



一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.62

- ▶ 発行：2023年8月31日
- ▶ 編集：広報委員会（佐居由美 大橋久美子 瀬戸山陽子 竹森志穂 松尾尚美 海老原樹恵 賀数勝太）
- ▶ 連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <https://slnr.or.jp/>